

# 令和5年度第1回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和6年1月26日（金）

13時30分～16時45分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、  
齊藤委員、白石委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

## 1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 青木 ユカリ

## 3 議事

(1) 議事録署名人選定 小川副委員長

(2) 令和5年度まちづくり活動助成事業 事業報告会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答、意見等

### ① 白沢カルデアプロジェクト実行委員会

委員 パンフレットに載っている風景などの写真は全部自分たちで撮ったのか。

説明者 全部自分たちで撮った。

委員 アングルが素晴らしいと思った。パンフレットを編集するにあたり、工夫した点や大変だった点を伺いたい。

説明者 私自身は文章を書くのが苦手だが、事務局に中学校の理科の先生だった方がおり、全部書いてくれた。事務局のチームワークのおかげだと思う。デザインは蕃山房の社長がこういうことが好きで、12回ぐらい打ち合わせをして作った。

委員 要所要所で皆さんのこだわりや熱量が感じられると思う。これが皆さんの手に渡って活用されるのが一番かと思うが、今回作った2,500部は、どこに配布の予定か。

説明者 市民センターを中心に配布し、あとは青葉区役所、東北大学、小・中学校にこれから配ろうというところだ。昨年のガイドブックもそこに配ったが、教頭先生からももう少しやさしいものをといわれ作ったのが、今回のアイデアだ。

### ② 一般財団法人 仙台YWCA

委員 多世代交流の場を丁寧につくっており、6回のワークショップを考えるのも実施するのも大変だったと思う。保育者の確保が課題に挙げられているが、確保が

難しかったのか、それとも子どもの年齢によって保育者の数が足りなかったのか、参加者のバランスが難しかったのか。

説明者 もともと3名の保育者を予定したが、なかなか見つけられなかったのがまずは課題の1つだ。予算はつけて頂いたが見つけられず、そのまま乗り切ったという感じだ。

委員 保育者の確保は難しいと思うので、例えばワークショップ6回のうち子育て世代を対象とするものなどターゲットを絞り、そこには保育サポートの人をつける。それ以外は子育て家庭向けでないものにし、託児はつけない、抱っこやおんぶができるお子さんまでで参加をお願いするというような、回ごとにメリハリをつけてもいいかと思う。素晴らしい活動だと思う。

委員 参加者の方々は、固定的に同じような方が来られるのか、それとも流動的に新しい方が参加しているのか、傾向を教えてください。

説明者 毎回参加したいという方も数名いるが、かなわない状況もそれぞれあり、全回参加した方はいない。広報が成功しているのだと思うが、メディアトークやのびすくでチラシを見たというて来てくださる方など、初めての参加者が毎回いる。

委員 ちょうど開催時期が5類に移行したタイミングというのも、行きたいという思いと見つけて足を運ぶタイミングが合ったと感じた。毎回のテーマは、皆さんで考えているのか。

説明者 そうだ。運営委員会という団体としての委員会があり、そこで少し検討をして、玉手箱のほうのミーティングでさらに練っている。皆さん豊富にアイデアをお持ちで、手仕事以外にも、食べ物を作りたいなどいろいろアイデアは出ている。

委員 参加している方からもアイデアは何うのか。

説明者 そうだ。こういう講師の方がいるというようなアイデアも頂いている。

### ③ くよみ郷土研究会

委員 地域の皆さんと密着して、動植物の観察成果などを広めているというのはとてもよいことだと感心した。また緑化フェアで仙台の植物を披露したことも、とても意味があったと思う。この「芋沢街道通行心得」に食事をする場所なども載せているが、わずかでも広告料などの収入はもらっていないのか。

説明者 茶店を8件載せたが、お金は頂いていない。

委員 収入的に賄えているのであれば、それで大丈夫かと思う。

委員 小・中学校との連携を何うが、吉成小の3年生は例年お世話になっているようだが、他の小・中学校とは、リーフレットを配る以外に、具体的な活動としては何か要請などはあるのか。

説明者 3月に吉成中学校の2年生にくよみの自然と歴史のお話をしてほしいというお話を頂いており、広がってきていると実感している。

委員 ぜひ今後とも地域の子供たちのために力を貸していただけるとありがたい。センターまつり等吉成市民センターと連携しているが、市民センターは地域の情報

が集まるところであり、このような活動は広めることが大事だと思うので、生かしていただきたい。

委員 ある種の地域の歴史を、動物、植物、昆虫などと関連付けられると、分野を超えて地域を見るというところがあると思うので、子どもたちも地域を知る上でいろいろな接点ができ、具体的に見られるのではないかと思う。次年度の活動も楽しみにしている。

委員 いろいろな印刷物がとても見やすく、情報量が豊富だと思った。予算は印刷費のみだが、デザインや編集はメンバーの方がしているのか。

説明者 メンバーがしている。

委員 写真は皆さんが撮ったものを活用しているのか。

説明者 写真も大体会員が撮っている。編集や折り曲げ方などの仕様は、会員の中にスキルの高い方がいる。

委員 内容が充実し、紙の厚さも用途に応じており、使いやすさを考えているように思った。

#### ④ せんだい 21 アンデパンダン展実行委員会

委員 最初の頃は芸術などに凝った、知っている方だけの参加だったかと思うが、一般の方の参加も増えてきて、望ましい活動だと思う。今までパフォーマンスなどを行ってきたフォーラスが閉まってしまい、代わりにむかでやでやるとのことだが、むかでやはそれほど大きいスペースではないかと思うが、そことフォーラスの前のスペースだけで実際にやっていけるのか。また、収支決算で自己負担が 25 万円ほどあるが、誰が負担しているのか。

説明者 会場の件だが、パフォーマンスは引き続き勾当台公園やフォーラス前での許可を得ており、今までやっている他の 6 会場も引き続き来年もやる。フォーラスは 7 階、約 60 坪分くらいを会場にしていたが、むかでやは 10 坪ぐらいであり、もう少し屋外ののりっぱでの出展者を増やしていけたらと思う。今回ののりっぱを使うにあたり、参加者も集めて草刈りなど会場の手入れなどを一緒に行った。屋外は難しいところもあるが、のりっぱは広くまだ出展できる場所があるので、屋外にも積極的に参加していただけるような仕組みを作っていきたい。自己資金は、基本的には私の個人のお金だ。ただアンデパンダン展は、新しい参加者や、初めてギャラリーで展示する方でも参加しやすい環境になっており、各ギャラリーは普段場所貸しで運営しているが、アンデパンダン展に参加して個展やグループ展をやりたいという新規の方が増えている。

委員 無審査ということでもともとハードルが低く参加できると思うが、現在仙台市や宮城県でも障害のある方で制作活動をしている方はいるが、そういう方の参加もあるのか。

説明者 1 割程度いる。フォーラス 7 階の同じフロアにエイブルアートが入っており、自分も美術の展示でそういう方たちの展示の手伝いをしている関係もあり、広報も協力してもらっている。

委員 ぜひ今後ともそういう方々の発表する場として、継続していただきたい。

委員 本当にハードル低くだれでも参加でき、表現者のモチベーションが上がる場だと思う。トートバッグの販売収入が 99,000 円とあるが、単価が 2,200 円とのことである。これ以外に、絵ハガキや通年で販売できるものなど手軽に買えるものがあると、出展料を上げるのは難しいと思うので、募金代わりに買って応援したいという方が出展者の周りにもいるのではないかと思う。

説明者 確かに、トートバッグよりも宣伝用のアンデパンダンのアだけを切ったキーホルダーの方が人気で、そういうものも需要があることを今回知ったので、来年度からもう少し気軽なものを作っていたらと思う。

⑤ 一般社団法人 芭蕉の辻まちづくりの会

委員 仙台の中心部のまちづくりに協力しているということが良く分かる。大きい七夕はもちろん、そこから先のなかなか目が行き届かないところにも、子どもたちの想いを発表できる場を設けるといのはありがたい。講演会等多くの企画もこなし、費用なども取って潤沢に運営していると思うので、産学官、大学、学校、そして明治安田生命のような一般の企業の方達と連携したまちづくりへの取り組みを、今後とも頑張っていたきたい。

⑥ 関山街道フォーラム協議会

委員 セミナーには参加者が多いが、それ以外のぷらっとカフェ、ハーブを楽しむ料理教室、駅間のウォーキングなどは、参加の人数が少ないと感じる。広報なのかどうかわからないが、もう少し多くの方が参加し、楽しんでもらえるようになればと感じる。

説明者 広報としては河北新報のイベント情報に載せたり、市民センターでチラシを配布したりなどとやっているつもりだが、コロナ禍ということも影響してか、なかなか参加人数の増加につながらない。仙山線の駅間ウォーキングについては、関係者と主催者側が中心になって調査をしている段階であり、探訪会は、車での移動などを考えた時に大体 10 から 15 人ぐらいが適正かと思っている。過去の嶺渡では 40 人規模で 4 班体制でやるなど、そういう経験もしている。だがもう少し参加者が増えるように頑張りたい。

委員 ルート登録プロジェクト関連として予定されていたワークショップやシンポジウムは、今年度は結果的に調整の比重が多く、次年度に繰り越すという状態か。

説明者 9 月ぐらいからずっと動いていて、勉強会や準備会をしたいと言っていたが難しかった。

委員 そもそも下半期にやる予定で年間の予定は組んでいたのか。

説明者 準備に時間がかかるということと、当協議会の活動がそこまではほぼ埋まっていたため後半に持っていった。1 年目は他の助成金でワークショップやシンポジウムを開催した。それが山形側でも同じようにできるかと思ったが、残念

ながらできなかった。

委員 関係者調整がうまくいかないということか、それとも顔ぶれはそろっていて、交渉の段階で難しいということか。

説明者 もともと温度差がある中で進めようとしていることがあり、山形側に民間活動で協議会のようにやれる団体、個人的にやれる団体が見つからない。それでも2、3年かけて理解のある団体に参加してもらい、勉強会などがスタートできればありがたい。アンケート調査も準備はしていたが、行政側が追い付かずストップがかかったこともあった。行政と両輪で動かないと成り立たないので、民間活動としてはやりづらい。

委員 足並みが揃わずに動いてしまうと後々大変だと思うので、中・長期戦になるかもしれないが、時期を改めたり、別な関係構築を考えたりなど、予定の修正をしながら取り組むのはどうか。国の予定に則ってというところがあると思うが、関わっている皆さんの熱量が下がってしまうのももったいないと思う。

説明者 山形側と連携して一緒にと思っていたが、現実的に山形側の動きが難しい時には仙台側だけでルート登録をするというのもあってもいいかもしれないと、東北地方整備局と話したこともあった。ルート登録の1つの「のしろ白神ネットワーク」が、東北の中で一番うまくいっている事例かと思うが、全国から人を呼んでシンポジウムをやっている。21ルートの中で小さくてもいいからうまくいき、ネットワークができると、関山ルートを紹介できるし、そこが一番のメリットかと思う。

委員 山形側の協力者がいないということだが、たとえば大学の先生やルートに明るい方々に助言頂き、そこからのルートで行政に行くとスムーズに行く場合や、ご存じの方を紹介してくださることがある。東北大の先生に山形の先生どなたかいませんかと聞くのも一つの方法かと思う。

説明者 そういう話も出ており、行政との調整の中でそういう動きになればどんどん行きたいが、少しだけ待ったがかかっている雰囲気だ。山形大の先生とも交流はあるので、連携が出来ればと思っている。

## ⑦ ドゥーラせんだい

委員 多くの親子が楽しんで帰り、アンケートの評価も高く素晴らしいと思った。ワークショップや育児相談などいろいろな場が用意されていたが、アンケート結果によると相談に訪れた方で青葉区の方が非常に少なかった。その場で話して終わるという方ももちろんいると思うが、各区に応じて相談内容によりつなぎ先の情報を提供したり、気になる方はどこかにつなげたりしたことはあるか。謝金やワークショップの材料費が運営費の大半を占めていると思うが、講師は2回とも同じ方か。

説明者 自分の子供が発達障害なのではないかと感じ、相談を頂いた方がいた。ただセンシティブな内容であり、私たちは医療者ではないので、代わってつなげるということではなく、区の支援メニューやアーチルを紹介した。講師は2回と

も同じ方を招いてワークショップを開催した。

委員 楽しい場をつなげることはなかなか難しいと思うので、のびすくや保健福祉センターにあるたくさんの相談先のチラシを連携先として置いておくとよいかなと思う。発達についてはアーチルだけではなく、様々な相談窓口のカードやチラシを用意すると、相談を受ける方が安心していろいろな相談を受け、つなげることができると思う。団体だけで一生懸命やるよりも、いろいろなところと連携していくとより連携が進むのではないかと思った。

委員 2回目は予約制を撤廃して開催したということで、反応を受け止めながら実施してきたと感じた。場所の広さが課題とあるが、今後もエル・パーク仙台なのか、あるいは情報の提供、拡がりなどはあるか。

説明者 最初市民センターの広い部屋を予約しようと考えていたが、なかなかそういう場所は平日でも取ることが難しく、また危険があり、乳幼児を連れての方を招くのにプラスで経費が掛かるような状態だったので、今回エル・パーク仙台の子供の部屋という所を選定した。次にどこの会場にするかは決まっておらず、検討をしている段階だ。

委員 実際にご自身たちで利用してみると気が付くところもあるだろうし、情報として、利用する方がこういう場所だと行きやすいなど、そういった両面から選定の幅を広げることもありかと思う。参加者はいろいろな所から来ており、近くであれば行くという方もいたと思うので、今後來る方のニーズと皆さんの状況で、地域は青葉区に限らず広げていくことは考えているのか。

説明者 青葉区の助成ということで会場を選定したが、ゆくゆくは各区のいろいろな会場を回って開催することは検討している。

委員 このような子育ての事業の支援は、いろいろな助成金や国の政策として手厚くなってくるかと思うので、ぜひ青葉区の行政の担当とよく相談していただき、他の助成金やそういったものを活用できるよう取り組みを進めて頂きたい。

#### ⑧ 西川前びーんずクラブ

委員 豆も自分たちで育ててみようとなったとのことだが、畑はどうされたのか。

説明者 私の家の畑だ。休んでいる畑だったので、使ってもらった。

委員 味噌作りからいろいろなことに広がっていく可能性がありそうな気がしている。体を動かすと、閉じこもっていたのが生き生きとしたり、おしゃべりが盛んになったりと、関わっている方々が元気になっている感じがある。

説明者 味噌作りをしながらいろいろな雑談をする。西川前だけでなく熊ヶ根や愛子地区、遠くは泉区からも参加があり、味噌作りの過程の主役になり、いきいきとした生活を送っている。

委員 来年以降が楽しみだ。

#### ⑨ 特定非営利活動法人 作並・新川地区活性化協議会

委員 地域活性化のために行動されている様子がすごいと思ったが、決算で広報費

が使われてないが、どのような広報をしたのか。

説明者 協議会の中で弱い部分が、事業を皆さんに知らしめる、情報を発信する部分であると思っている。今回花田んぼを企画するにあたり、SNS で発信をしたり、協議会のホームページに載せたり、直接小・中学校にチラシを撒いたりということはやっていたが、より一般の方にも来ていただくために、いろいろな場所にチラシを撒いたり、ポスターを作ったりなど、もっと考えていかなければないと思っている。

委員 広報にもさらに力を入れることで、いろんな方が参加できたり知ることができたりするとうれしいと思う。クレソンもせっかくの財産なのでどんどん宣伝してほしい。

委員 ヒマワリが咲いた後は、種はどうしているのか。近くの郵便局に置いて、他から来た方に喜んでもらえるように、その地域だけではなく遠くにも持って行ってもらい、活動を周りの人にも知ってもらえたらと思う。

説明者 種については、ヒマワリにこだわりすぎてしまい、夏にヒマワリが咲いた後に刈り取り、またヒマワリを植えて秋にも咲かせようと思ってしまったが、霜が下りて1輪しか咲かなかった。ヒマワリにこだわらず秋には秋の花を咲かせるような工夫をして、種などを持って帰ってもらったり、刈り取る時に皆さんの自宅に持って行ってもらうたりということもしたい。

委員 猛暑など環境がとても乱れていると感じるが、めげずに頑張ってもらいたい。

#### ⑩ tuku-tuku 実行委員会

委員 こけしのワークショップで参加費は取らなかったのか。こけしの材料代などは講師の謝金の中に入っていたのか。

説明者 こけし店は講師として呼んでいるので、材料も全部お店で用意しており、そちらは別にお店として取っている。

委員 全体の予算がすごく少な目で頑張っているのだから、自団体のほうに収入として入るような工夫をすると、もう少し企画規模が大きなものができるのではないかと感じた。

委員 イベントをお知らせするのに、チラシを使っているが、SNS などを活用して楽しい雰囲気などを周知したら、もう少し人が集まるかと思う。

説明者 SNS はやっており、tuku-tuku のインスタのポータルサイトがある。出店者の SNS にリンクを張ってもらい、そこからリポストでやっている。SNS とチラシポータルでおよそ3万から4万ぐらいの広告となっている。

委員 実行委員会の名前の tuku-tuku というのは何からきているのか。山形の出店者との関係は、もともと何かネットワークを持っていたのか。

説明者 tuku-tuku の名前は、作並の作るとマルシェで出店者がものづくりをしているので、それをかけて tuku-tuku としている。山形の出店者との繋がりについては、自分はコーヒー屋をやっており、いろいろなフェスで出店する際に知り合いになったり、他のイベントで一緒になったりと、そういう横のつながりで

出店してもらっている。

⑪ 定禅寺リビングストリートプロジェクト

委員 今回3年目で、当初はコロナでなかなか思い通りに実施できずというところ、3年目は5類に移行して、緑化フェアのイベントも相まっていろいろな方に足を運んでもらえたということで、賑わいが残像で残っている。この3年目の状態は、当初想定していたぐらいの状態か、あるいはそれよりももう少しいい状態、想像を越えているような状態なのか。今後の展開としても3年の取り組みが土台になると感じるので、この3年を足掛かりに、今後に向けて想定していることがあれば伺いたい。

説明者 私達はコミュニティのグループなので、その中でマルシェ運営をどこまでできるのかと、最初は未知の状態だったが、メンバー以外の方々の協力と理解が大きかった。SNSの反響や学生の声がとにかく多く、日本全国まちづくりを勉強している若い方がいる中、実際に見られる場所、一緒にやれる場所を持続するために、こんなに広がり、思った以上に反響があったと感じている。その分メンバーの負担が大きくなっているという不安があり、どういうふうに取り除き、協力していくべきかということを考えている。

委員 ペットマルシェのような新たな取り組みをするとき、清掃の仕方や出店者との約束事など、たくさん大変なことが起こりそうな気がするが、出店者の方々に出店料以外にお手伝いを頂いたこと、出店者からお声を頂いたことで、何か工夫につながるものがあれば伺いたい。

説明者 地域柄メンバー誰もペットを飼っておらず、慣れている方にペットマルシェを呼ぶリーダーとなってもらい、コーディネートしてもらった。定禅寺通西側は住宅街のイメージがあり、うるさいのではとドキドキしながらやってきたが、喜ばれる声の方が多かった。トイレの問題は、慣れている方と相談をしながら運営をしてきた。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 \_\_\_\_\_ 印

議長（委員長） \_\_\_\_\_ 印